

Sun Server X2-4 (旧 Sun Fire X4470 M2)

Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
1 はじめに	7
サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム	7
Oracle Solaris ドキュメントコレクション	8
インストール時の注意事項	8
Oracle Solaris 10 および 11 インストールプログラム	9
インストールタスクの概要	10
2 Oracle Solaris のインストール	11
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 OS のインストール	11
始める前に	12
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 OS のインストール	12
PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 または 11 OS のインストール	16
始める前に	16
▼ ネットワーク PXE ブートを使用した Oracle Solaris 10 または 11 OS のインストール	17
インストール後のタスク	19
3 サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	21
ファームウェアとソフトウェアの更新	21
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	22
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	22
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス	23
▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード	23
物理メディアのリクエスト	24

更新のインストール	27
ファームウェアのインストール	27
ハードウェアドライバと OS ツールのインストール	28
A サポートされるインストール方法	29
コンソール出力	29
インストールブートメディア	31
インストール先	34
B 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定	37
BIOS の出荷時デフォルト設定の確認	37
始める前に	37
▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集	38
C サポートされているオペレーティングシステム	41
サポートされているオペレーティングシステム	41
索引	43

はじめに

このインストールガイドでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールと構成の手順を説明します。

注 - Sun Server X2-4 は以前は Sun Fire X4470 M2 サーバーという名前でした。この以前の名前が、まだソフトウェアに表示されることがあります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントは、サーバーシステムを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- 5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」
- 5 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 6 ページの「サポートとアクセシビリティ」

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

手順については、[第3章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X2-4	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunFireX4170M3
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 (Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース 1.3 以上用)	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Installation Assistant	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia

フィードバック

次でこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com
	聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

◆ ◆ ◆ 第 1 章

はじめに

この章では、Oracle Solaris オペレーティングシステムを Oracle の Sun Server X2-4 にインストールする方法の概要について説明します。

注 - Sun Server X2-4 は以前は Sun Fire X4470 M2 サーバーという名前でした。この以前の名前が、まだソフトウェアに表示されることがあります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 7 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
- 8 ページの「Oracle Solaris ドキュメントコレクション」
- 8 ページの「インストール時の注意事項」
- 9 ページの「Oracle Solaris 10 および 11 インストールプログラム」
- 10 ページの「インストールタスクの概要」

サポートされる **Oracle Solaris** オペレーティングシステム

Sun Server X2-4 は、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムをサポートします。

- Oracle Solaris 11 11/11
- Oracle Solaris 10 08/11
- Oracle Solaris 10 9/10

Sun Server X2-4 上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新済みの一覧については、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Server X2-4 のページを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

Oracle Solaris ドキュメントコレクション

このガイドのインストール手順では、Oracle Solaris のインストールをブートし、開始する手順の概要を説明しています。Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールおよびリブートしたら、利用可能な更新があるかどうかを確認する方法およびそのインストール方法について Oracle Solaris のドキュメントで確認します。次のドキュメント Web サイトを参照してください。

Oracle Solaris 10 の場合は、次の URL を参照してください。http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html

Oracle Solaris 11 の場合は、次の URL を参照してください。http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

インストール時の注意事項

x86 サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な考慮事項を参照してください。

考慮事項	説明	詳細については、次を参照してください。
オペレーティングシステムを手動でインストールするためのローカルまたはリモートによる配備方法の選択	<p>オペレーティングシステムは、サポートされる配備方法のいずれを使用してもインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 内蔵または外付けのストレージデバイスおよび接続された KVMS を使用するローカルインストール。■ Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソール、自動インストール、カスタム JumpStart インストール、カスタム JumpStart インストールを使用するネットワークインストール。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 付録 A 「サポートされるインストール方法」、サポートされるインストール方法■ Oracle Solaris 11 システムのインストール■ カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成■ Sun Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)■ Sun Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)

考慮事項	説明	詳細については、次を参照してください。
RAID ボリュームの作成	<p>ブートドライブを RAID 構成の一部にする場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オプションの SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタ (HBA) を使用している場合、LSI 統合 RAID コントローラの構成ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA 設置ガイド』および『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーガイド』を参照してください。 ■ オプションの SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用している場合、BIOS 構成ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを設定する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA 設置ガイド』を参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA 設置ガイド』(http://docs.oracle.com/cd/E19221-01/index.html) ■ 『LSI MegaRAID SAS ソフトウェアユーザーガイド』(http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-int-z.aspx) ■ 『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA 設置ガイド』(http://docs.oracle.com/cd/E19337-01/index.html)
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS の出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 付録 B 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」
オプションの追加ソフトウェアのインストール	オペレーティングシステムのインストールを実行したあとに、システムに関連のある重要な Solaris パッチのインストールが必要となる場合があります。Solaris パッチには、新機能、機能の強化、および既知の問題に対する修正が含まれています。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 ページの「インストール後のタスク」
OS のインストールに関する最新情報とパッチの入手	サポートされているオペレーティングシステムソフトウェアおよびパッチについては、『Sun Server X2-4 プロダクトノート』を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Server X2-4 プロダクトノート

Oracle Solaris 10 および 11 インストールプログラム

Oracle Solaris 10 および 11 OS メディアに収録されている Oracle Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用して、またはリモートコンソールで対話式テキストインストーラとして実行できます。システム要件については、関連の Oracle Solaris OS プロダクトノートを参照してください。

インストールタスクの概要

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールするには、次の手順をこの順番で実行します。

1. Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールメディアを入手します。
Solaris オペレーティングシステムのインストールメディアはサーバーに付属しています。
2. の手順に従って、サーバーで使用可能な最新のドライバおよびユーティリティをダウンロードします。
3. [付録 A 「サポートされるインストール方法」](#) を参考にして、Oracle Solaris インストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。
4. [第 2 章 「Oracle Solaris のインストール」](#) で説明するように、Oracle Solaris のインストールを実行する手順に従います。
5. [19 ページの 「インストール後のタスク」](#) で説明するように、Oracle Solaris のインストール後のタスクを実行する手順に従います。

Oracle Solaris のインストール

この章では、Oracle Solaris 10 または 11 オペレーティングシステム (OS) を Sun Server X2-4 にインストールする方法について説明します。

この章は、次の項目で構成されています。

- 11 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 OS のインストール」
- 16 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 または 11 OS のインストール」
- 19 ページの「インストール後のタスク」

インストール済みの Solaris 10 または 11 OS イメージを構成する方法については、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の構成手順を参照してください。

Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムのインストール方法については、<http://docs.oracle.com/cd/E19253-01/index.html> の Oracle Solaris 10 情報ライブラリを参照してください。

Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムのインストール方法については、http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html の Oracle Solaris 11 情報ライブラリを参照してください。

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 OS のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたはリモートメディアから Oracle Solaris 10 または 11 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法を説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 11 11/11 インストールメディア
- Oracle Solaris 11 11/11 ISO ブートイメージインストールメディア
- Oracle Solaris 10 9/10 以降のリリースの DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 9/10 以降のリリースの ISO ブートイメージインストールメディア

注-PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[16 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 または 11 OS のインストール」](#)で手順を確認してください。

始める前に

このセクションのインストール手順を開始する前に、次の前提条件を満たしてください。

- オペレーティングシステムをインストールするための該当するインストール前提条件をすべて満たしている必要があります。これらの前提条件については、[第 1 章「はじめに」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、使用するインストール方法 (コンソール、ブートメディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している必要があります。これらの設定に関する要件については、[付録 A「サポートされるインストール方法」](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要なタスクを確認して実行する必要があります。詳細については、[19 ページの「インストール後のタスク」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した **Oracle Solaris 10** または **Oracle Solaris 11 OS** のインストール

- 1 インストールメディアをブートできることを確認します。
 - 配布 DVD の場合。ローカルまたはリモートの DVD ドライブに **Solaris 10** または **11 DVD** を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、**Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、[付録 A「サポートされるインストール方法」](#)を参照してください。

2 サーバーの電源をリセットします。

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーの「**Host Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /System**
BIOS 画面が表示されます。



注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

- 3 BIOS 画面で **F8** キーを押して、**Solaris** インストール用の一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。



- 4 「**Boot Device**」メニューで、最初の(一時)ブートデバイスとして外付けまたは仮想 DVD デバイスを選択して、**Enter** キーを押します。

手順 3 で表示されるサンプル「Boot Device」メニューで、仮想 DVD デバイスを最初のブートデバイスとして指定します。

注-Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、リダイレクトされた DVD から Solaris のインストールを実行する場合は、「AMI Virtual CDROM」を選択します。この項目は、リダイレクトされた DVD からインストールを実行するときに、「Boot Device」メニューのオプションとして表示されます。

「GRUB」メニューが表示されます。次のサンプル画面は、Oracle Solaris 11 GRUB メニューを反映しています。Oracle Solaris 10 をインストールしている場合、システムの GRUB メニューは異なります。

```
GNU GRUB version .97 (639K lower / 2078660K upper memory)
```

```
Oracle Solaris 11 11/11
Oracle Solaris 11 11/11 ttys
Oracle Solaris 11 11/11 ttyb
Boot from Hard Disk
```

- 5 GRUB メニューで、上または下矢印キーを使用して、表示オプションを選択します。
例:

- Oracle Solaris 11 の場合、「**Oracle Solaris 11 11/11**」を選択し、**Enter** キーを押します。

注 - 画面の出力をシリアルコンソールに表示するには、「Oracle Solaris 11 11/11 ttya」を選択します。

注 - Oracle Solaris 11 LiveCD または LiveCD イメージを使用して、Oracle Solaris 11 OS をインストールしている場合、CD にログインするように求められることがあります。ユーザー名とパスワードはどちらも jack です。root のパスワードは solaris です。

手順 6 に進みます。

- **Oracle Solaris 10** の場合、「**Solaris_10 os**」を選択し、**Enter** キーを押します。
Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスは数分かかる場合があります。完了すると、「Install Type」メニューが表示されます。
「Install Type」メニューで、上および下矢印キーを使用して、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択し、**Enter** キーを押します。

注 - インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」を押して、「GRUB」メニューを編集します。シリアルコンソールをサポートするには、カーネル行のブートフラグに **console=ttya** を追加します。

手順 6 に進みます。

- 6 画面のメッセージに従って、**Oracle Solaris** のインストールを完了し、必要な場合は、**Oracle Solaris** のドキュメントを参照して詳細情報を確認します。
インストールが完了すると、システムが自動的にリブートし (前の構成手順でこのオプションを選択した場合)、Oracle Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 - インストール完了時に自動的にリブートするようにシステムを構成しなかった場合は、システムを手動でリブートしてください。

- 7 **19 ページの「インストール後のタスク」**に進み、**Solaris** のインストール後のタスクを実行します。

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 または 11 OS のインストール

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムインストールをブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 11 11/11 インストールメディア
- Oracle Solaris 11 11/11 ISO ブートイメージまたは自動インストーライメージインストールメディア
- Oracle Solaris 10 9/10 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 9/10 ISO ブートイメージまたは Solaris JumpStart イメージインストールメディア

注 - 自動インストーラと JumpStart は、複数のサーバーにはじめて Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールし、構成するための多くの手動のタスクを自動化します。JumpStart イメージの使用方法については、『Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』を参照してください。自動インストーラの詳細については、『Oracle Solaris 11 システムのインストール』を参照してください。

始める前に

Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 PXE インストールを開始するには、次の要件を満たしている必要があります。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次のタスクを完了しておくようにしてください。
- インストールをエクスポートするように PXE ブートインストールサーバーを設定します。

注 - 複数の DHCP サーバーが存在するサブネットを経由した場合、PXE ネットワークブートは正常に機能しません。このため、インストール対象のクライアントシステムを含むサブネットでは、ただ 1 つの DHCP サーバーを設定する必要があります。

- Sun Server X2-4 の MAC ネットワークポートアドレスを、PXE ブートインストールサーバーでクライアントシステムとして構成します。

ネットワークから Oracle Solaris 10 を設定およびインストールする方法については、『Solaris 10 9/10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。ネットワークから Oracle Solaris 11 を設定およびインストールする方法については、『Oracle Solaris 11 システムのインストール』: 「インストール サーバーを使用したインストール」を参照してください。

- インストールメディアソースが自動インストーラまたは JumpStart インストールイメージである場合、イメージを正しく準備し、インストールに備える必要があります。このガイドでは、自動インストーラまたは JumpStart インストールの正しい設定と配備の方法については説明しません。

Oracle Solaris JumpStart イメージの作成方法については、『Solaris 10 9/10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』を参照してください。カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成の詳細については、『カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成』を参照してください。

次に示す手順の完了後、この章で後述するインストール後に必要なタスクを確認して実行する必要があります。詳細については、19 ページの「インストール後のタスク」を参照してください。

▼ ネットワーク PXE ブートを使用した Oracle Solaris 10 または 11 OS のインストール

- 1 PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Solaris のインストールメディアを PXE ブートで可以使用を確認します。

詳細は、16 ページの「始める前に」を参照してください。

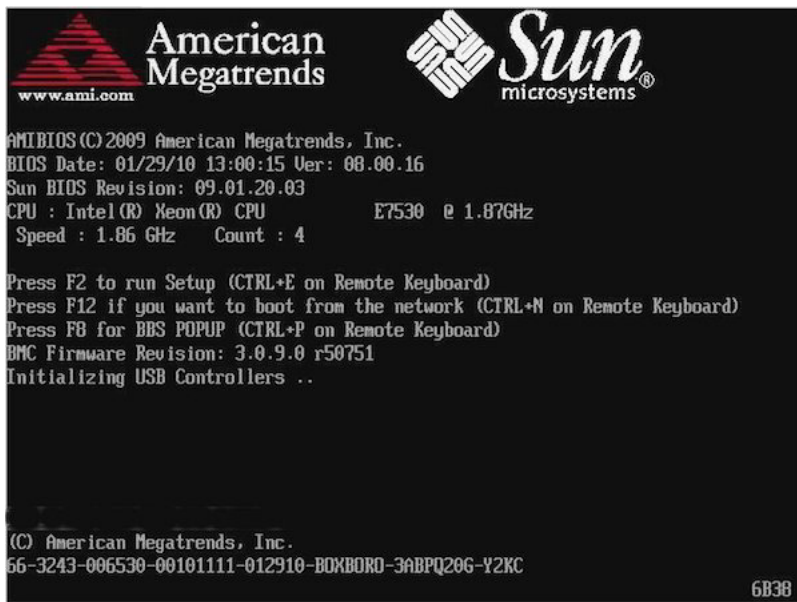
- 2 サーバーの電源をリセットします。

注 - 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

例:

- Oracle ILOM Web インタフェースから、ナビゲーションツリーの「Host Management」>「Power Control」を選択します。次に、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の Oracle ILOM CLI で、次のように入力します。reset /System

BIOS 画面が表示されます。



注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

- 3 BIOS 画面で、**F8** キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
- 4 「**Boot Device**」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択して、**Enter** キーを押します。
PXE ブートポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。
「GRUB」メニューが表示されます。次のサンプル画面は、自動インストーラのインストール時の Oracle Solaris 11 PXE GRUB メニューを表しています。Oracle Solaris 10 をインストールしている場合、システムの GRUB メニューは異なります。
GNU GRUB version .97 (639K lower / 2078660K upper memory)

Oracle Solaris 11 11/11 Text Installer and command line
Oracle Solaris 11 11/11 Automated Install
- 5 GRUB メニューで、上または下矢印キーを使用して、自動インストールを選択します。

注 - デフォルトの GRUB メニューエントリ「Text Installer and command line」はハンズフリーインストールを起動せずにイメージをブートします。このオプションの詳細については、Oracle Solaris 10 または 11 のドキュメントを参照してください。

例:

- Oracle Solaris 11 の場合、「Oracle Solaris 11 Automated Install」を選択し、Enter キーを押します。
- Oracle Solaris 10 の場合、「Solaris_10 os」を選択し、Enter キーを押します。
Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスは数分かかる場合があります。完了すると、「Install Type」メニューが表示されます。
「Install Type」メニューで、上および下矢印キーを使用して、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択し、Enter キーを押します。

注 - インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」を押して、「GRUB」メニューを編集します。シリアルコンソールをサポートするには、カーネル行のブートフラグに `,console = ttya` を追加します。

- 6 画面のメッセージに従って、Oracle Solaris のインストールを完了し、必要な場合は、Oracle Solaris のドキュメントを参照して詳細情報を確認します。
インストールが完了すると、システムが自動的にリブートし (前の構成手順でこのオプションを選択した場合)、Oracle Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 - インストール完了時に自動的にリブートするようにシステムを構成しなかった場合は、システムを手動でリブートしてください。

- 7 19 ページの「インストール後のタスク」に進み、Solaris のインストール後のタスクを実行します。

インストール後のタスク

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールおよびリブートしたら、利用可能な更新があるかどうかを確認する方法およびそのインストール方法について Oracle Solaris のドキュメントで確認します。次のドキュメント Web サイトを参照してください。

Oracle Solaris 10 の場合は、次の URL を参照してください。 http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html

Oracle Solaris 11 の場合は、次の URL を参照してください。 http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

- 21 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」
- 22 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
- 22 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
- 23 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 27 ページの「更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード(パッチ)です。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用するサーバー用の最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Sun Server X2-4 の出荷時にインストール済みの機能で、サーバーファームウェアおよびソフトウェアを簡単に更新できるようにします。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームウェアおよびソフトウェアは、My Oracle Support Web サイトから入手できます。
My Oracle Support Web サイトで入手可能なものの詳細については、<http://support.oracle.com> を参照してください。
My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法の手順については、23 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」を参照してください。
- 物理メディアのリクエスト (PMR) – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。
詳細は、24 ページの「[物理メディアのリクエスト](#)」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードする タイミング
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ILOM_AND_BIOS	Oracle ILOM および BIOS。	最新のプラットフォーム ファームウェアが必要です。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ORACLE_HARDWARE_INSTAL LATION_ASSISTANT	Oracle Hardware Installation Assistant の回復と ISO 更新イ メージ。	Oracle Hardware Installation Assistant を手動で回復するか 更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – TOOLS_DRIVERS_AND_FIRMW ARE_DVD	ツールおよびドライバおよび プラットフォームファーム ウェアが含まれます。この DVD イメージには Oracle VTS は含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合 わせを更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.0 – DIAGNOSTICS	Oracle VTS 診断イ メージ。	Oracle VTS 診断イ メージが必 要です。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエ
ストする方法について説明します。次を参照してください。

- 23 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウ
ンロード」
- 24 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソ フトウェアのダウンロード

- 1 Web サイト <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー(拡張)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部 (Sun Server X2-4
など) を入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード (パッチ) のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードについての詳細は、[22 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします。(Shift キーを使用すると複数のパッチを選択できます。)
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 更新をダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの zip ファイルをクリックします。
パッチファイルがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) で最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	25 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	25 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 26 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
- *My Oracle Support* にアクセス可能な場合 – 23 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」に記載された手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認して、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 – 22 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」に記載された情報を参照して、目的のパッケージを確認し、最新のソフトウェアリリース向けのパッケージをリクエストします。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、25 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、「**Sun Server X2-4** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**」と入力します。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	はい
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	いいえ
CDやDVDでパッチをご希望ですか。	はい
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X2-4 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	いいえ

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に リクエストを行う前に、25 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。

<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>

- 2 Oracle サポート部門に、**Sun Server X2-4**の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を知らせます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X2-4** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- [27 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [28 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Oracle から最新のファームウェアをダウンロードし、インストールできます。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 のドキュメントライブラリは <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> でアクセスできます。

ハードウェアドライバと **OS** ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- JumpStart や自動インストーライメージなどのその他の配備メカニズム。

詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。



付 録 A

サポートされるインストール方法

サーバーに Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [29 ページの「コンソール出力」](#)
- [31 ページの「インストールブートメディア」](#)
- [34 ページの「インストール先」](#)

コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示するためのコンソールを一覧表示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	設定要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ シリアルコンソール■ VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)	<ol style="list-style-type: none">1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。2. Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。3. シリアルコンソール接続の場合のみ、start /SP/console と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 <p>サーバー SP との接続の確立方法については、http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31 にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。</p> <p>Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30 にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 のドキュメントライブラリにアクセスできます。</p>

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	設定要件
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 ■ シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。 Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (<code>ssh root@ILOM_SP_ipaddress</code>)。2) Oracle ILOM コマンド行インタフェースにログインします。3) <code>start /SP/console</code> と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

インストールブートメディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。表 A-2 に、サポートされているメディアソースおよび各ソースのセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション

インストールメディア	説明	設定要件
ローカルブートメディア	<p>ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ CD/DVD-ROM または USB インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア	<ol style="list-style-type: none">1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面のパネルに適切なストレージデバイスを接続します。2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされている OS のリモートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア ■ CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア ■ 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要) 	<p>リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 CD/DVD-ROM の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。 デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。 デバイスドライバフロッピーの ISO イメージの場合、ISO イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。 2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関する設定要件を参照してください。 3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します。 CD/DVD-ROM ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 CD/DVD-ROM ISO イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。 フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。 <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア (続き)	注-自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーでOSのインストールを実行できます。自動イメージを使用すると、複数のシステム間で構成を統一できます。自動インストールでは、PXE (Pre-boot eXecution Environment) テクノロジを使用することで、クライアントはオペレーティングシステムなしでオペレーティングシステムのインストールを実行する自動インストールサーバーにリモートでブートできます。	<p>PXEを使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. PXE ブート経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。2. OS インストールメディアをPXE ブートで利用できるようにします。 自動OSインストールイメージを使用する場合は、次のような自動OSインストールイメージを作成する必要があります。 -Solaris 自動インストーライメージ -Solaris JumpStart イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。3. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとしてPXE ブートインタフェースカードを選択します。

インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (HDD) または Solid State Drive (SSD)	サーバーに取り付けられているハードディスクドライブまたは半導体ドライブはどれでも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	<p>HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。</p> <p>HDD または SSD の取り付けおよび電源の投入方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。</p>	付録 C 「サポートされているオペレーティングシステム」 に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。

表 A-3 OS インストールのインストール先 (続き)

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ファイバチャネル (FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバス アダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ サーバーに FC PCIe HBA が正しく取り付けられていることを確認します。サーバーへの PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。 ■ ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および構成します。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。 	付録 C 「サポートされているオペレーティングシステム」 に示す、すべてのオペレーティングシステム。

新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

ハードディスクドライブまたは半導体ドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に構成されていることを確認するようにしてください。

- システム時間
- システム日付
- ブート順序

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティーでは、必要に応じて設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定できます。BIOS 設定ユーティリティーで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に

BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。詳細は、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。

- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、表 A-1 を参照してください。

▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

- 1 サーバーの電源をリセットします。

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

例:

- **ILOM Web** インタフェースのナビゲーションツリーで、「**Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の **ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。
- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。
 - a. **F9** を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。
メッセージが表示され、「**OK**」を選択してこの操作を続けるか、「**CANCEL**」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
 - b. メッセージで「**OK**」を強調表示して、**Enter** キーを押します。
BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

- 4 BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス(+)を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス(-)を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - **Enter**を押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します
 - 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。
「Boot Settings」メニューが表示されます。
 - 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter**を押します。
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
 - 7 「**Boot Device Priority**」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter**を押します。
 - b. 「**Options**」画面で、上矢印キーと下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し**Enter**キーを押します。
「Boot」メニューおよび「Options」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。
-
- 注-変更する各デバイス項目に対して手順7aおよび7bを繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。
-
- 8 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。
または、「Exit」メニューで「Save」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージのダイアログで「OK」を選択して、**Enter**キーを押します。

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。このため、「Remote Console」ウィンドウの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

サポートされているオペレーティングシステム

この付録の表 C-1 では、このドキュメントの発行時に Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムについて説明します。

Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスして、Sun Server X2-4 のページに移動してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

サポートされているオペレーティングシステム

Oracle の Sun Server X2-4 は次のオペレーティングシステムまたは後続のオペレーティングシステムのリリースのインストールと使用をサポートしています。

表 C-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Oracle Solaris	<ul style="list-style-type: none"> Oracle Solaris 11 11/11 Oracle Solaris 10 08/11 Oracle Solaris 10 9/10 	<ul style="list-style-type: none"> Sun Server X2-4 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド
Oracle 仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> Oracle VM 2.2.1 - 3.0.3 	<ul style="list-style-type: none"> Sun Server X2-4 Oracle VM ソフトウェアインストールガイド

表 C-1 サポートされているオペレーティングシステム (続き)

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Linux	Oracle Linux 5.5 - 6.2 (64 ビット) Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux 5.6 - 6.1 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 - 6.0 (64 ビット) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット) SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 (64 ビット)	■ Sun Server X2-4 Linux オペレーティングシステムインストールガイド
Windows	■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Standard Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Enterprise Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Datacenter Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、SP1 (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Standard Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Enterprise Edition (64 ビット) ■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Datacenter Edition (64 ビット)	■ Sun Server X2-4 Windows オペレーティングシステムインストールガイド

索引

B

BIOS

設定の確認, 37

電源投入セルフテスト画面, 14

BIOS 設定ユーティリティー, 38

「Boot Device」メニュー, Solaris OS, 14

D

DHCP サーバー, 推奨される数, 16

G

GRUB メニュー

Solaris OS, 14, 18

J

JumpStart ユーティリティー, Solaris OS, 16

M

MAC ネットワークポートアドレス, 16

O

Oracle ILOM リモートコンソールアプリ

セッション, Solaris OS のインストール, 14

P

PXE インストール, Solaris OS, 16

R

RAID ボリュームの作成, 9

S

Solaris OS

「Boot Device」メニュー, 14

JumpStart ユーティリティー, 16

Oracle ILOM Web インタフェース, 13, 17

Oracle ILOM リモートコンソールアプリ

セッション, 14

一時ブートデバイス, 14

インストール

GRUB メニュー, 14, 18

サーバーの電源のリセット

サポートされているインタフェース, 13, 17

サポートされているバージョン, 41

ドキュメント, 8

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用, 11

Solaris OS インストール

インストール前の考慮事項, 8

前提条件, 12

タスクの概要, 10

ローカルまたはリモートメディアの使用, 12

Solaris OS のインストール, PXE ベースのネットワークからリモートメディアを使用, 16
Solid State Drive、インストール先としての, 34

リモートコンソール、OS インストールに使用, 31

W

Windows OS、サポートされているバージョン, 42

ろ

ローカルコンソール、OS インストールで使われる, 30

い

一時ブートデバイス, Solaris OS, 14
インストール先, 34
インストールブートメディア, 31

お

オペレーティングシステム、サポートされているバージョン, 41

か

仮想マシンソフトウェア、サポートされているバージョン, 41

さ

サーバーの電源投入, 13

は

ハードディスクドライブ、インストール先として, 34

ふ

ブートメディア, 32, 33